



ガマのほから、とつぜん綿毛がふき出したのはなぜ

ガマのほは、め花の集まり

川辺で見かけるガマのほは、くきの先に細い部分があり、その下に、茶色の布でできたような丸いほがありますね。まだ、ほが茶色になる前のガマは、緑色をしていて目立ちません。でも、このころのガマをよく見ると、先の方の細い部分に、お花がたくさん集まってついています。じつは、下の丸くて太い部分が、め花の集まりなのです。

お花の花粉をもらって、め花の所に、小さい種ができます。びっしりつまって生えている茶色のほの部分には、毛の一つ一つがめ花で、そこに小さな種ができています。そして、外からは見えませんが、め花の根もとの所には、細かい毛が何本もついています。

おしこめられていた綿毛が、急に広がる

種がついたガマのほは、よく乾燥すると、やがて、種の一つずつが、ほからとれて、今までおしこめられていた根もとの毛が、ぱあっと広がります。そして、タンポポの綿毛のようになって、空中を飛んで、遠くへ散らばっていきます。この種がとれて広がり、綿毛になるとき、爆発するように、茶色のほから白い綿毛が飛び出してくるので、ちょっとびっくりします。秋の川辺では、白い綿毛になったガマが見られます。（監修・矢野 亮）

